



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和7年5月号

〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

新年度が始まり、少し緊張感が溶けたのでしょうか、子ども達の元気な声が校舎に響き渡っています。そんな子供たちが頑張る姿や学校の様子をできる限り毎日 HP にアップしています。お時間があるときにご覧ください。

児童と家庭、地域の皆さん、学校職員の笑顔があふれる市之倉小学校となることを願っています。

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』

校 長

市之倉小学校では1年間で5つの「期」で分け、その節にあたるものが行事と考えています。

第1期のテーマは「土台」です。

始業式に、「大切な“土台”というものは改めて学ぶものではなく、ずっと小さな時から教わっていて、それを思い出して大切にすることが土台づくりにつながりますよ」という話をしました。これは今回のタイトルとなっている『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』というロバート・フルガムという方が著書をもとにしました。そこにはこんなことが書かれています（一部を抜粋です）。

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々をおくればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場にうまっていたのである。わたしはそこで何を学んだらうか。

何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。
使ったものはかならずもとのところに戻すこと。ちらかしたら自分で後片づけをすること。

人のものに手を出さないこと。誰かを傷つけたら「ごめんなさい」と言うこと。

食事の前には手を洗うこと。トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。(略)

人間として知っていなくてはならないことはすべて、このなかになんかの形で触れてある。このなかから、どれなりと項目を一つ取り出して、知識の進んだ大人向けの言葉に置き換えてみるといい。そして、それを家庭生活や、それぞれの仕事、国の行政、さらには世間一般に当てはめてみれば、きっとそのまま通用する。

確かに、ずるをしたり人をぶったりすることをしなければ、トラブルはずっと減るでしょう。そしていつも自分で片付けたり、掃除ができたりしていればさらに安心して学校生活を送れることもできるでしょう。

今取り組んでいる第1期は、5月25日開催予定の「いちのくら体育参観」で一つの節となります。その節までどのように仲間と接して生活をしていくのか、自分のやるべきことをどれだけやり切れるか、その積み重ねが大切になります。

当日を目指してみんなで考え、「手をつないで離れ離れにならない」ことを意識し、声を掛け合っておもいやりと協力をする毎日を過ごすことで行事を行った後に達成感や満足感、自己肯定感を得て、成長していったほしいと思います。



昨年度の体育参観より